

ヤマトシジミの食害 ③モクズガニ・ワカサギ

2008年5月下旬、小川原湖漁協のコンクリート水槽（ヤマトシジミの初期成長①参照）でトレイに入れて飼育中のヤマトシジミが、多数食害され多くの砕けた殻が残されていました。トレイ内にはモクズガニが入っており、このカニによる食害と推定されました。

そこで、約60ℓの水槽にモクズガニ大2尾を収容し、殻長10.9mm～24.4mmのシジミ10個を同水槽内にいれました。2日後に確認したところ、10個のうち小型（殻長13mm以下）の4個が食べられていました。

カニにとって14mm以上のシジミは、ハサミで挟めない、または殻が硬くて割ることができないために、食べるができなかったようです。小型のシジミは天然においても食害されていると考えられます。

シジミの殻長と被食状況

	殻長(mm)	2日後
1	24.4	生残
2	21.5	生残
3	18.3	生残
4	16.1	生残
5	15.2	生残
6	14.1	生残
7	12.6	被食
8	12.2	被食
9	11.5	被食
10	10.9	被食



モクズガニとシジミ



生き残ったシジミと被食されたシジミ



試験に使ったモクズガニ

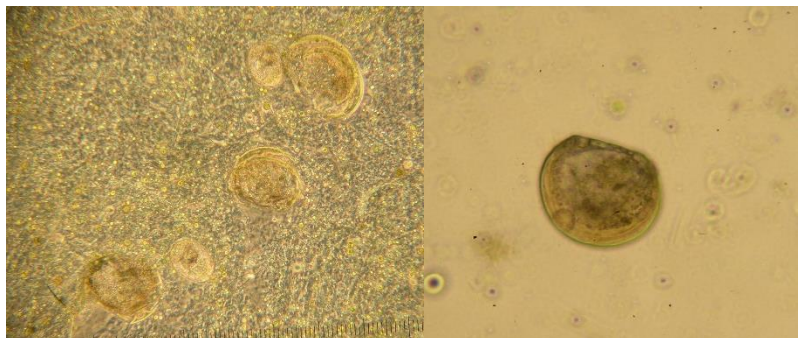
ヤマトシジミの食害について、偶然見つかったこともあります。2004年9月2日小川原湖で漁獲されたワカサギの腹が緑色に着色されているとのことで小川原湖漁協からワカサギが持ち込まれました。

ワカサギの腹部は毒々しい緑色でした。色については、ワカサギが湖内で増えていた植物プランクトンを食べ、漁獲の際に消化管がつぶれて内容物が腹部内に広がり色がついたのだろうということになりました。

消化管の内容物を顕微鏡で観察している中で、ヤマトシジミの殻がいくつか見つかりました。2004年は何年かぶりにシジミが大発生した年で、浮遊幼生（D型ラーバ）が湖水中に多く浮遊しており、それらがワカサギに食べられたのだと思われます。それまで、浮遊幼生の食害について考えたことはなかったのですが、0.1～0.2mmの浮遊幼生は、ワカサギなどの稚魚にとって良い餌になっているのかもしれませんが。



持ち込まれた腹部が緑色のワカサギ
(2004/9/2)



ワカサギの胃内容物から見つかったヤマトシジミ浮遊幼生の殻 (2004/9/2)